

実体を描く

— 山口長男の芸術 —



山口長男《構成(赤)》1955年、油彩・板、182.7×184.0 cm

薩摩川内市に本籍を持つ画家、山口長男（1902～83）は韓国京城府（現在のソウル）に生まれ育ちました。その作風は抽象的に見えますが、山口はあくまでも自然の実体を描いたものであると言います。そこにはどのような意味が秘められているのでしょうか。

今回の講座では、日本現代絵画の大きな成果と評される山口作品の魅力を探ります。



山口長男《池》1936年、油彩・キャンバス、53.2×72.8 cm

◆日時：2019年3月17日（日）14:00～15:30

◆講師：山西 健夫（学芸アドバイザー）

◆会場：鹿児島市立美術館 地下会議室

◆定員：24人（超えたら抽選）

◆応募方法：

①講座名 ②住所（郵便番号） ③氏名（フリガナ）

④年齢 ⑤電話番号 を明記し、

往復はがきか、FAX、Eメールにてご応募ください。

◆締切り：2019年3月6日（水）【必着】

◆応募・お問い合わせ先：

〒892-0853 鹿児島市城山町 4-36

鹿児島市立美術館「学芸講座」係

TEL/099-224-3400 FAX/099-224-3409

Eメール/bijutu-gaku@city.kagoshima.lg.jp

※要応募・聴講無料

往信宛名面 返信文面

892-0853 往信 鹿児島市立美術館 「学芸講座」係	鹿児島市城山町4-36 返信文面
---------------------------------------	---------------------

返信宛名面 往信文面

000-0000 返信 応募者の住所 応募者のお名前	①講座名 ②〒000-0000 住所 ③フリガナ 氏名 ④年齢 ⑤電話番号
-------------------------------------	---